|  |
| --- |
| 小規模多機能型居宅介護「サービス評価」　総括表　　（令和2年5月） |

|  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 法人名 | 医療法人社団吉祥会 | 代表者 | 綿谷　宏 |  | 法人・事業所の特徴 | 笑顔とまごころをもって、細やかな心遣いの出来る介護を目指し、寄り添い、居場所作り、地域の関わり、生きている実感、その人らしさ、共に生きる事を大切にしながら取り組んでいます。 |
| 事業所名 | 小規模多機能型居介護事業所さわらびの郷 | 管理者 | 綿谷　宏 |

|  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 出席者 | 市町村職員 | 知見を有するもの | 地域住民・地域団体 | 利用者 | 利用者家族 | 地域包括支援ｾﾝﾀｰ | 近隣事業所 | 事業所職員 | その他 | 合計 |
| 1人 | 0人 | 6人 | 0人 | 1人 | 1人 | 3人 | 14人 | 0人 | 26人 |

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| 項　　目 | 前回の改善計画 | 前回の改善計画に対する取組み・結果 | 意見 | 今回の改善計画 |
| Ａ．事業所自己評価の確認 | 利用者様の気持ちを大切に今一度原点に立ち返って取り組む。 | 新規の利用者様には事前にご家族様からお好みやしてはならない事についてお聞きするようにしている。 | ・情報が上手く伝達出来ていないことがある。・利用開始後の利用者様やそのご家族との会話が不足している。 | 事業所内での情報の伝達についてラインを活用するなど個人情報に配慮しつつ情報共有できるよう取り組む。 |
| Ｂ．事業所のしつらえ・環境 | 前回、不十分であったカフェスペースの有効利用を実現したいと思っている。 | ・カフェスペースの有効利用について工夫が不足している。・カフェのリニュアルオープンの際には看板を新しくしている。・ひまわり園様にお願いし、とれたて野菜の販売をおこなっている。 | 地域資源の発掘が十分とはいえない。 | 引き続き、カフェスペースの有効利用に取り組んでいきたい。また、見た目にこだわり、入りたくなるような環境を作って行こうと思う。 |
| Ｃ．事業所と地域のかかわり | 困りごとの相談がしやすくなるようカフェを活用して地域の方と馴染みの関係を構築する。 | ・カフェとしてはかなり周知されてきたせいもあり、利用される方が多くなってきたと思われる。・北播磨県民局の「北播磨ええのんあるやんシリーズ」にて紹介して頂いてます。 | ・利用される方が多くなっているが、ご意見を聞くには至ってない。・意見ではないが、いきいきサロンを利用された方が後日、職員として来られている。 | 小野市内の他事業所の方と協働し、事業所の垣根を超え、地域の方との関係づくりに取り組んでいきたい。 |
| Ｄ．地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み | 自事業所だけの力を頼らず地域の方のお力を借りて利用者様がより良い暮らしが出来るよう計らう。 | いきいきサロンに積極的に参加させて頂き、さわらびの郷ご利用者である事を地域の皆様に周知していただく。 | ・個々の利用者様と地域の関係性について理解できていない。・個別担当者の意見の強さがサービスの差になってしまっている。 | 限られた利用者様・職員だけでなく、幅広く外の空気に触れる事が出来るように配慮する。 |
| Ｅ．運営推進会議を活かした取組み | 運営推進会議に今まで以上に他事業所に参加して頂き、違った視点からの意見をすいあげさせていただく。 | 運営推進会議を２カ月に１回、開催できるよう取り組み、参加して頂ける方に問題意識をもって参加頂けるよう計らう。 | 介護に没頭している職員もおり、利用者様ファーストの気持ちはあるが、柔軟な動きが出来ていないと感じる部分がある。 | 運営推進会議での地域の方のご意見をオープンに、事業所の職員が周知出来るよう情報を発信していく。 |
| Ｆ．事業所の防災・災害対策 | 洪水だけにとどまらず、地震等のあらゆる災害を想定した訓練及び計画を作成し、備える。 | 避難計画を見直して、より具体的に取り組んでいく。 | その都度、右往左往している。 | 災害が起きた場合、被害に遭ってしまう方を極力少なく出来るよう、出来る限り、早めの対応を心掛ける。 |